

大分県立大分豊府中学校 学力向上プラン 1 (8月)

学校教育 目標	創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って国際社会でリーダーとして活躍できる人事の育成
育成を目指す 資質・能力	・学ぶことに興味・関心を持ち、自分の進路目標と結び付けながら、粘り強く学習に取り組むことのできる生徒 ・誠実で正義感にあふれ、他者の立場に立って物事を考えうる、人権感覚に富んだ生徒 ・学業と部活動、生徒会活動などに果敢に挑戦し、両立を体現できるたくましさを持った生徒 ・広い視野で物事を考え、他者の価値観を認めながら、協働して課題解決に当たれる生徒 (本校グランドデザイン「目指す生徒像」より)

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○「全国学力・学習状況調査」正答率(全国との比較%) 国語+19.1、数学+29、英語3技能IRTスコア624(全国499) ○「大分県学力定着状況調査」正答率(全国との比較%) 国語+22.5、社会+18.9、数学+26.2、理科+24.6、英語+27.7 ●例年と大きな差異はないが、国・社の学力を高める必要あり。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○学習時間(全国との比較%) 平日1時間以上78.2%(61.6%) 休日2時間以上68.5%(29.9%) ○平日のスマホ・携帯によるSNS・動画視聴時間(全国との比較%) 3時間以上10.5(49.6)2-3時間25.7(25.3)1-2時間44.8(16.9) ●全国ほどではないがSNS等の視聴時間が気になる生徒がいる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・1年次より行われる数学・英語の「少人数授業」の丁寧な指導において学習内容を確実に定着させている。 ・タブレットを活用した授業や話し合い活動を多く取り入れた授業で、主体的な姿勢で臨んでいる。 ・「コミュニケーション」「ファウンデーション」の学校独自教科で、社会が求める資質を身に付けたり、高校での授業に円滑に移行できる力を身に付けたりしている。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 [R7年度2月の学力向上会議での課題克服取組] (1) 高い進路目標の設定・・・「高校生サポーター」「中高パネルディスカッション」「難関大学進路講演会」等の実施 (2) 学習量・学習習慣の見直し・・・「学習時間調査」(全)「B-1グランプリ」(1年)「帰れまテン」(3年)の実施 (3) 学習の質の見直し・・・「学習推移調査振り返り」(全)「思考の森」(3年)の実施 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○日常の授業では「ICTを活用した主体的・対話的な授業の実践」に取り組んでいる。 「1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」(R8全国学力・学習状況調査質問より) ⇒ 1「ほぼ毎日(1日に複数回の授業で活用)」89.5%(全国29.3%) 併せて「校内アンケート:学習の中でPC・タブレットは勉強の役に立つと思うか→あてはまる93.2%」から取り組みの成果はあると言える。	

学力に関する達成指標

- ・中2「大分県学力定着状況調査」、中3「全国学力・学習状況調査」の「正答率」が全国平均値+20ポイント
- ・Benesse「学力推移調査」GTZ「S」「A」50%以上(内「S」以上10%)、「C」「D」10%以下

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 生徒の主体性の向上を目指し、中高6年間の各学年段階における思考力・判断力・表現力を育成する授業改善を通して、生徒の資質・能力を伸ばす指導法の工夫	
	〈取組内容〉 生徒が「授業内容に興味や関心を持ち、自ら積極的に学習に取り組む、振り返って次につなげていける」授業の実践	〈家庭・地域の取組内容〉 ・家庭での見守り・対話 ・学校行事への積極的参加や学校との連携体制の保持 ・学校評議員会への参加
	〈取組指標〉 年間を通じ、全授業者によるICTを活用した主体的・対話的な授業の実践とその充実	〈家庭・地域の取組指標〉 ・39メールを活用した出欠連絡や学校行事等の情報収集 ・保護者会や授業参観、行事等jへの積極的参加
	〈検証指標〉 ○生徒アンケートにおける「4(よくできた)」の回答が70%以上 1 授業において主体的に考え、積極的に参加した 2 授業に満足しており、授業内容に興味を持てる ○職員アンケートにおける「4(よくできた)」の回答が70%以上 1 生徒の主体性を向上させる取組や働きかけを行っている 2 主体的な学習姿勢を育成するためにICT機器を活用している	〈家庭・地域の検証指標〉
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・進路目標の確認(面談を通して目標設定のアドバイスをを行う) ・低学力層への指導(「質問をしやすい雰囲気」の学級や授業づくり)「『自学ノート作成』など苦手教科を克服するためのアドバイス」「追指導・居残り指導」「長欠者への夏季休業中の補講」など) ・Benesse「学力推移調査結果による全国レベルでの検証	